

多摩センター子どもまつり雑感

何年続いているのか多摩センター子どもまつりは5月の地域の風物詩であり、男ボラの大イベントである。手頃なレジャーとして沢山の子供がやってくる。

男ボラの準備

早くから竹やぶで竹を切り、乾燥させ、竹馬、竹ポックリ、竹笛、竹返しを作る、代表や皆さんの技術、根気、体力に感心しながら私も手伝う。

五月晴れの期待

長い冬が終わり、春を迎え梅や桜の季節が過ぎ、やっと安定した好天が期待される季節になり、雲一つない五月晴れが期待され気持ちも晴れやかになる。

子供の顔 親の顔

少子高齢化で子供が少なくなっているが、どこからこんなに子供がくるのかと思う沢山の数だ、子供の顔を見るのは楽しい、遊ぶのがほんとうに楽しいという笑顔でやってくる。

親の顔も明るく表情にくったくがない、世の中不景気で若い人の生活も大変だなど思っているが私の考え過ぎで本人達は生活を楽しんでいる様子である。

乗った竹馬を返しに来る時「有難うございました」とお礼を言う子供も多い。黙って返す子には親がお礼を言うように注意している。

子供も親も礼儀は出来ていると思う。むしろ孫の乗った竹馬を祖父が黙って返すことがある。

竹馬

順番どおりに並んでもらったり、空いた竹馬を渡したり、前で支えて歩かせたり、休憩をとる暇もないほど人気がある。乗ったことがある子供も経験のない子も、表情は興味深々で待ちどおしい顔である。女の子が上手で熱心である。

忙しいので男ボラの他の遊び、長瀬さんの竹とんぼ教室、竹かえし、ベーゴマ、竹笛の販売はほとんど行ったり、見たり出来ない。一度ゆっくり見たい。

(つづく)



男ボラの貢献と役割

男ボラのコーナーは子供であふれている、物品の販売以外遊びは無料で、竹トンボの無料配布もある、親や子供にもこどもまつりでの男ボラの貢献は大きい。

参加の継続

私自身腰に持病があり3日間コンクリートの上で立ちっぱなしは辛い。会員の体力、年齢を考え会員以外の協力が必要である。

「継続は力なり」だが力にするには「継続は絆なり」で若者の参加を促したい。来年の為に若者のボランティアを探したい。国士館、多摩大学、首都大学東京をあたってみたい。

(大久保光三)

- ・「ふれあいタイム（昔あそび）」は、多摩第3小で3年生対象に、毎年10月～翌年2月まで、5回実施、竹とんぼ、竹馬、けん玉、凧作りなどの指導、遊び方を伝承しています。



最近 10 年間の活動状況

- ・「永山フェスティバル」では、「バルーン」や「竹とんぼ」も人気がありますが、H15 から登場した「パソコン手相占い」は、特に中年以上の女性に好評。楽しいひとときを楽しんでいただいています。



・福祉バザー出品

ボランティアセンター永山分室のある東永山複合施設では、多摩市社協主催で福祉まつりが開かれていた。男ボラはH17 車いす体験コーナー、竹とんぼづくり体験コーナーなどで参加をはじめたが、H19 福祉バザーに変わり、体験メニューが不可能になったので、物品即売をはじめた。メインは竹教室で制作したさまざまな竹細工。お客さんからの要望で作ったものが、翌年のヒット商品になることも。会員が持ち寄った不用品即売も、ユニークな品そろえて、評判よく、すぐ完売になる。



・ボランティアまつり参加

総合福祉センターで毎年開かれるボランティア交流会は、H21 年度よりボランティアまつりと改称し、各団体それぞれ趣向をこらしたイベントが盛り沢山。これまで車いす体験コーナーのみであったが、手相診断、竹とんぼづくりなど、だんぼらの多彩な活動を紹介。

